

上映会の「案内」  
映画「この世界の片隅に」



すずさんの世界を彩る女優・のん、音楽・コトリンゴ

主人公すずさんを演じるのは女優・のん。片淵監督が「ほかには考えられない」と絶賛したその声でやさしく、柔らかく、すずさんに息を吹き込みました。すずさんを囲むキャラクターには細谷佳正、稲葉菜月、尾身美詞、小野大輔、潘めぐみ、岩井七世、牛山茂、新谷真弓ら実力派が集結。松竹新喜劇の座長・澁谷天外も特別出演しています。本作の音楽はコトリンゴが担当。ナチュラルで柔らかな歌声と曲想が、すずさんの世界を優しく包みこみます。

監督・片淵須直 × 原作・この史代 —信頼しあう2人のタッグ 再び—

監督は片淵須直。第14回文化庁メディア芸術祭優秀賞受賞の前作『マイマイ新子と千年の魔法』(09)は観客の心に響き、異例の断続的ロングラン上映を達成しました。徹底した原作追及、資料探求、現地調査、ヒアリングを積み重ね、すずさんの生きた世界をリアルに生き活きと描き出した本作には紛れもなく今の私たちの毎日に連なる世界があります。原作はこの史代。第13回メディア芸術祭マンガ部門優秀賞ほか各メディアのランキングでも第1位を獲得。綿密なりサーチによる膨大な情報と、マンガ表現への挑戦がさりげなく織り込まれており、その創作姿勢と高い完成度から多くのマンガファン・書店員から熱い支持を得ています。NHK『花は咲く』アニメ版でタッグを組んだ2人が再び結集し、新たな感動をお届けします。

STORY

1944(昭和19)年2月。18歳のすずは、突然の縁談で軍港の街・呉へとお嫁に行くことになる。新しい家族には、夫・周作、そして周作の両親や義姉・徑子、姪・晴美。配給物資がだんだん減っていく中でも、すずは工夫を凝らして食卓をにぎわせ、衣類を作り直し、時には好きな絵を描き、毎日の暮らしを積み重ねていく。  
1945(昭和20)年3月。呉は、空を埋め尽くすほどの艦載機による空襲にさらされ、すずが大切にしていたものが失われていく。それでも毎日は続く。そして、昭和20年の夏がやってくる——。



10品以上の記入欄

6	8	0		1
6	8	1		1

共同購入注文書の裏面「10品以上の記入欄」にご注文番号をご記入ください。  
※チケットは翌週の配送時にお届けいたします。

日時：9月23日(土) 午前の部 10:30~12:40 (10:00開場)  
午後の部 14:00~16:10 (13:30開場)  
会場：伊勢崎市境総合文化センター 大ホール  
(群馬県伊勢崎市境木島 818 ☎0270-76-2222)  
入場料：一般前売り 1100円(当日1300円) 注文番号 680  
3歳以上~高校生 800円(当日1000円) 注文番号 681  
※7月1週~9月1週まで注文受付します。

「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」にご協力ください。

被爆者が「自らを救い、私たちの体験を通し人類の危機を救おう」「ふたたび被爆者をつくるな」と訴え、日本原水爆被害者団体協議会は結成60年を迎え、平均年齢は80歳を超えました。「核兵器の使用禁止、廃絶は急がなくてはならない。禁止への流れを決して後戻りさせてはならない」と、世界各国に対し、核兵器を禁止し、廃絶する条約を全ての国が結ぶよう訴えています。2020年の核不拡散条約再検討会議に向け、世界数億筆の署名達成を目指しています。

現存する1万数千発の核兵器の破壊力は原爆の数万倍にもおよ

び、新たな核兵器を開発する動きもあります。人類は生物兵器、化学兵器について、使用、開発、生産、保有を条約、議定書などで禁じて来ましたが、それらをはるかに上回る破壊力をもつ核兵器を禁じることは当然のことです。

しかし、日本政府は唯一の戦争被爆国の責任を放棄した、極めて残念な態度を取っています。唯一の被爆国である日本、ぜひ、全ての人を被爆者にしないよう、この国際署名運動を世論として広げ、国際政治に訴えていきましょう。

\*別紙 署名用紙へのご協力をお願いいたします。